
危険な甘い蜜

時又玲奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

危険な甘い蜜

【Nコード】

N1302N

【作者名】

時又玲奈

【あらすじ】

朝、私は陽の光で目覚める。鳥のささやき声、そよそよと流れる風が頬を撫でる。そして目に飛び込んでくるのは……美形の王子！
？

（前書き）

かっつっなりあまあまです！十分注意してください！！！！

朝、私は陽の光で目覚める。

鳥のささやき声。

そよそよと流れる風が私の頬を撫でる。

そして、最初に飛び込んでくるのは木漏れ日と美男子…。

……えっ？

目の前、じゃなくてすぐ隣で安らかな寝息を立てる顔立ちの良い顔。

じ、じいっは……。

「キヤ

！！」

城中に響き渡る奇声。

それはこの変態をも起こした。

「ん、んー、ああ、おはよう。朝からどうしたんだい、エミリア？」

「なっ、なっ、なっ、何であんたが私のベッドにいるの!？」

「だって僕達、『夫婦』じゃないか」

今度はパンという軽快な音が城中に響き渡る。

「エ、エミリア。君のどんな愛でも受け入れられる自信はあるけど、こればかりは遠慮したいんだが……」

真っ赤に張れた頬を押さえながら困った顔をする彼。

「あんなのただの政略結婚じゃない！ 私は絶っっっ対に認めないわ!!!」

私はレクリエル王国第一王女。

彼は隣のサミルエ王国の第二王子。

いずれこうなることは分かっていたけど…。

でも、それでも私は、書類にサインするだけの婚約なんて……。

「エミリアは素直じゃないね」

「どっ、どっという意味よ？」

「君、顔真っ赤」

慌てて頬に手を添える。本当だ、熱い。

「……っ、もう、知らない！！！」

勢いよく立ち上がり洗面台へ向かう。

ちゃんと告白されて、プロポーズをされる。そんな恋愛を夢見ていたのに……。

ふわりと後ろから腕を回された。

耳にかかる息がくすぐつたい。

「愛してるよ。世界中の誰よりも。君は、僕だけのものだからね」

耳たぶに甘く柔らかな感触。

それを拒めず、むしろ強く望んでしまう私はすでに、彼に落ちてしまっているのだろうか。

「あ、朝っぱらから止めてよ！ は、恥ずかしいじゃない！」

そう言つとさらに腕に力をこめてくる彼。

そしてかすかに香る朝の匂い。

毒のように甘いこの蜜は、私を徐々に犯していく……。

（後書き）

今まで書いた短編の中で一番甘いと思います。

また観想いただければうれしいです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1302n/>

危険な甘い蜜

2011年1月8日21時45分発行